

2022年7月11日～12日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温・塩分・溶存酸素・流向流速の観測結果をお知らせします。

(函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

【水温の鉛直分布】

湾内10m以浅の水温は14～19℃と平年並みからやや高くなっています。一方で湾内の深度10～40mの水温は平年並みで、高温傾向だった昨年(2021年)に比べ1～9℃ほど低くなっています。それよりも深い50m以深は昨年と同様平年並みです。湾外の水温はSt.05で表層から50m深までは平年より4℃前後高く、50m以深でも平年より2℃前後高くなっています。

水温 (°C)

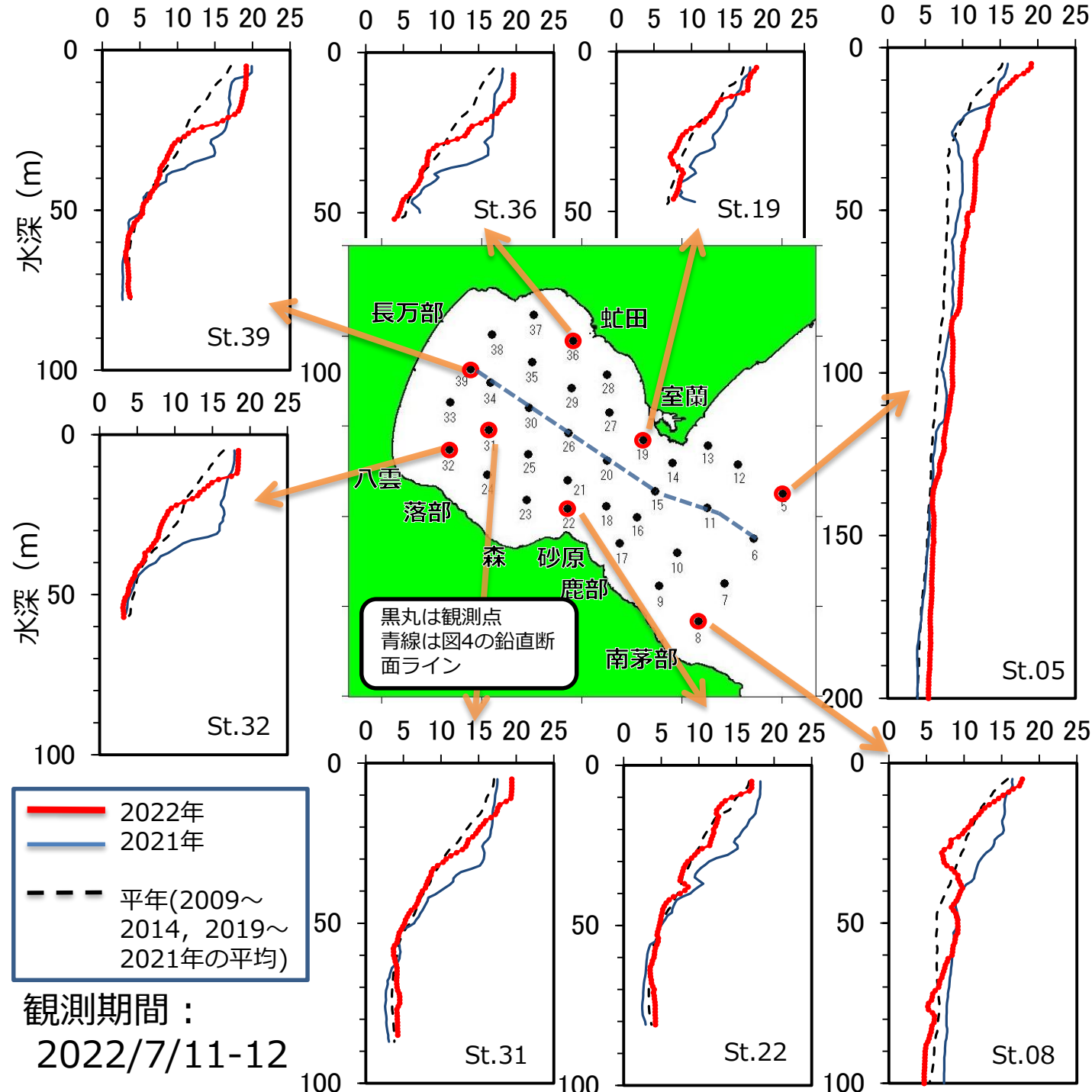


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布

観測期間：
2022/7/11-12

【水平分布：水温，塩分，流向流速】

噴火湾内の表層では5，6月に引き続き時計回りの渦が形成されています。深度10mの水温は湾内の北側（長万部沖～伊達沖）では19℃以上と高く，一方で南側の森沖から湾外では17℃以下であり2℃以上の差がありました。深度10mの塩分は湾内は31.5以下ですが，湾外は32.0以上と湾内より高くなっています。

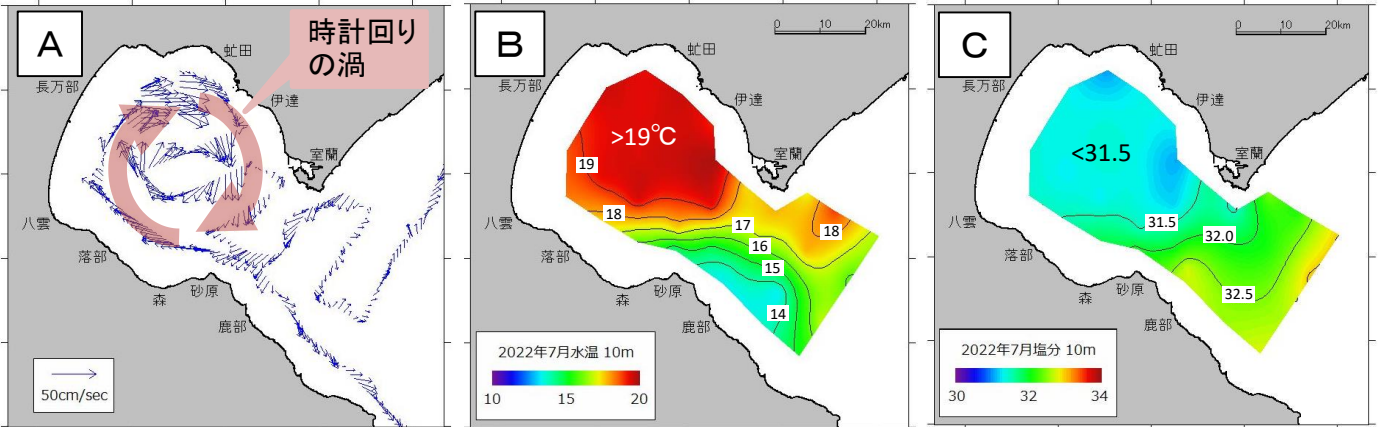


図2 A:流向流速（深度13m），B:水温（深度10m），C:塩分（深度10m）

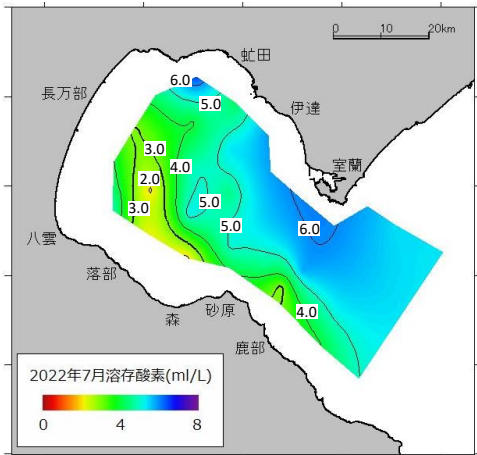


図3 溶存酸素の分布（海底上5m）

【溶存酸素の分布】

海底上5mの溶存酸素量は，1.7～6.7ml/Lで，6月（2.8～7.4ml/L）よりも低下しており，湾内の渡島側で貧酸素水（3.0ml/L以下）が見られます。

【水温，塩分の鉛直断面分布】

噴火湾内の深度20m以浅には，日射と河川水の流入により高温低塩分化した夏季噴火湾表層水（水温18℃以上，塩分32.0以下）が分布しています。一方，深度50m以深は水温が6℃以下であり，表層と底層の水温差が大きくなっています。津軽暖流水（水温6℃以上，塩分33.6以上）は噴火湾外の深度20m以深に分布していますが，湾内にはまだ流入していません。

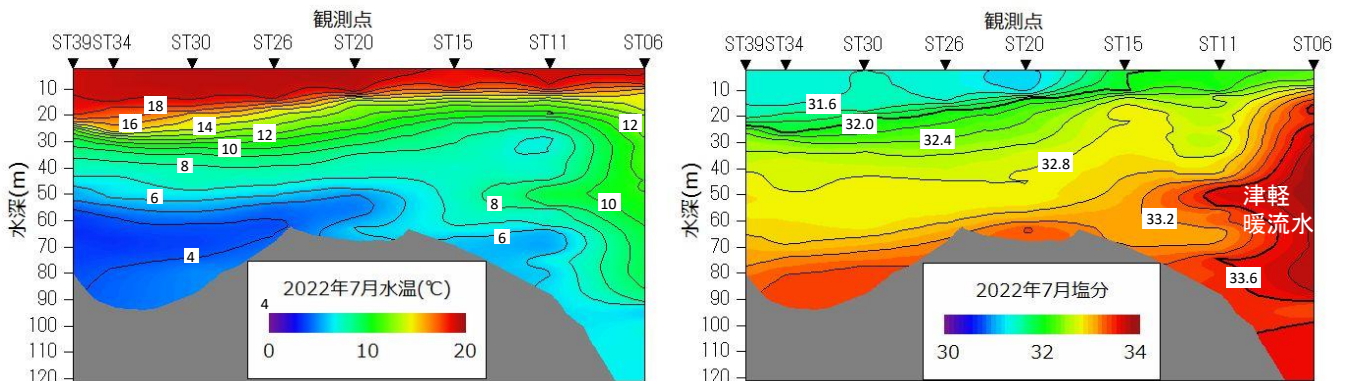


図4 水温・塩分の鉛直断面図（断面上部の▼は観測点）
鉛直断面の位置は図1の青破線を参照